

めることを目標とし、大きな成果を収めてきた。4月の入学式に、新入生の保護者に海外派遣説明会への参加呼びかけ、2学年には新学期が始まってすぐ、担任を通してプリントを配布した。4月16日に行われた説明会には29組（保護者及び生徒）の参加者があった。プログラム内容及び派遣者決定までの手続きの説明のあと質疑応答があり、18名の参加申込があった。筆記試験（基礎学力テスト）、100語以上による英作文、ALTによる面接、日本語での面接などの選考試験を通して、派遣生18名が正式に決定された。

発信型の研修にするため、日本文化紹介の冊子作り、さよならパーティ企画、英会話研修などの事前研修を小グループで実施した。壮行会に於いては参加者全員が全校生を前に一人ひとり英語によるスピーチをおこなった。現地に於いては各家庭一人でホームステイをしながら、通学し交流を深めた。ESLによる英語授業、陶芸及び日本語は現地の高校生の授業に参加、ペインティングではアボリジニー絵画を学び、州議事堂表敬訪問など内容の濃いプログラムを体験した。さよならパーティでは日本文化をコント、ダンスや歌、折り紙のプレゼンテーションを通して紹介し、ホストファミリーやダーウィンの先生方を感動させた。参加者全員がこの貴重な体験から沢山のことを学び、大きく成長して帰国することができた。8月31日に、帰国報告会を行い、感動をわちあつた。帰国後の派遣生の学校生活への態度はより積極的、前向きなものとなり、英語学習への取り組みも意欲的である。また、町内のスピーチコンテストに参加し、体験を発表した生徒もいる。

<受け入れについて>

9月13日－9月26日までダーウィン高校生20名を受け入れた。ホストファミリーの公募を初めて全校生を対象に行い、派遣生以外に7名の申し出があった。8月31日派遣生報告会終了後、受け入れ説明会を行った。学校全体で受け入れ体制をとるために他教科の先生方にも協力を呼びかけ、ダーウィン生徒に日本文化を紹介する授業を実施した。俳句、カラオケ、折り紙、書道など今までにない画期的な授業が展開でき、好評であった。茶道、体育、英語の授業、英語クラブ活動、「English Day」では生徒同士の交流をさらに深めることができた。（*資料10）9月15日には体育館に於いて、国際教育委員会主催の歓迎会を行った。司会進行は英語で、ダーウィンの生徒は勉強中の日本語で挨拶という楽しく心温まる交流が行なわれた。日本語が外国語として学校教科の中に組み込まれ学んでいる生徒が目前にいるということに新鮮な驚きと外国語を学ぶことの重要性をあらためて実感する機会となった。さよならパーティでは手作りのアンザックビスケットが振る舞われ、20名の留学生一人ひとりから日本語でスピーチがなされ、涙したホストファミリーもいたほどである。日本にしながら国際交流ができる喜びを生徒だけではなく、ホストファミリー共々味わえた2週間であった。

なお、海外派遣及び受入については、第21回「国際交流体験記」として冊子にまとめ、3月18日に発行した。

*資料10 「Schedule for Darwin High School 2004」